

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201322		
法人名	医療法人 梶田医院		
事業所名	グループホーム みのりの里 さくら		
所在地	長崎県佐世保市長畑町450-1		
自己評価作成日	平成29年10月11日	評価結果市町村受理日	平成30年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成29年11月14日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づき、入居者様の自分らしい生活を支援できるように、傾聴を大切にし、楽しみの時間を共有しています。ゆっくりとした生活環境や時間の提供、一人ひとりのペースでの生活を基本にできる限り自由な時間の提供と日課の支援を行っています。家族や知人、近隣の方がいつ来られても、安心して過ごしていただけるよう環境整備に努めています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、郊外の静かな環境の中にある。職員は「いつまでも自分らしくあり続ける」という理念を具現化するために、入居者本位の時間や環境を提供することを大切にしている。入居者それぞれが、リビングに自分の落ち着ける場所を持っており、好きなことをしながら、ゆったりとした時間を過ごしている姿から「実りたたる稲穂のような人生」を送ってほしいという職員の思いが伝わってくる。また、母体の医療法人の協力の下、24時間の医療連携体制を取っている。この連携体制を活かして、看取りに積極的に取り組んでいることは、特筆すべき点である。人生の最期においても、本人や家族の思いに寄り添い、職員間で意識を共有し、入居者を支えることに力を尽くしているホームである。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員全員で共有し、理念の想いに近付けるように、日々意識をもって入居者の方とせっている。	理念の「いつまでも自分らしくあり続ける」を室内の目につく場所に掲示し、職員の意識付けを行っている。職員は理念に基づき、入居者を見守り、支援を行っている。リビングには、入居者それぞれの居場所があり、自分らしく過ごしている姿に理念を具現化している様子が窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動への参加や避難訓練時に地域の方の参加がある。保育園との定期的な交流。	七夕祭り、クリスマス会と年間を通して地域保育園との交流が盛んであり、入居者の楽しみごとになっている。散歩途中に園児が立ち寄り、近所からは梅の収穫の誘いがある等、日常的な付き合いがある。また、中学生の職場体験や短大の介護実習生の受入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	清掃活動等に参加している。外出時には、地域の方と挨拶や声掛けをし交流をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の会議を開催し、行事やサービスの提供状況等の報告し、意見交換を行っている。また、地域の状況や気づき等、情報共有の場ともなっている。	会議では、行事報告の他、ヒヤリハット報告も積極的にを行っている。ホームの近くの三差路での一旦停止について地域住民より要望があり、職員へ注意喚起した事例がある。ただし、参加している家族は限られており、その他の家族の会議に対する認知度は低い状況である。	回を重ねるごとに充実した会議内容になっており、構成メンバーから、より良いサービス向上に繋がる意見もあるため、運営推進会議の存在及び議事の内容について入居者家族へ知らせる方法について検討・取組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の各担当者と必要に応じ連絡を取り合っており、相談や助言をいただいている。市主催の研修会に参加している。	行政へは、運営推進会議の議事録を持参したり、申請書の書き方や感染症についての相談、事故報告を行う等、日頃から連絡を取り合う関係を築いている。また、職員は行政主催の勉強会や研修会に積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内及び外部の身体拘束の研修等へ参加している。ミーティング等での研修報告や自身を含め皆で評価、確認を行っている。	身体拘束ゼロ推進委員会を中心に年1回、拘束についての内部研修を法人全体で実施している。また、外部研修時のグループワークの記録を行政から取り寄せ、ミーティングでの評価、確認の資料として利用し、身体、言葉等による拘束について討議し日々の支援に活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内や外部の研修で全職員が虐待防止について学び、意識を持てるようにしている。ミーティング等での評価、確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人制度等の研修に参加し、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の説明と入居後も必要に応じ説明し、意見を聴き、理解を得るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を準備し、面会時等には意見を聴き対応している。事例により、他事業所の職員に相談する事もある。	苦情・相談の連絡先は、重要事項説明書に記載している。行事や外出の様子を掲載したホーム便りを定期的に発行し、写真を添え、家族へ手渡しや郵便で送付している。現在、家族が訪問した際、口頭で要望を聞き取っているものの、家族から積極的に意見を吸い上げる取組みは行っていない。	家族からの要望や意見を広く吸い上げるよう工夫し、運営に反映させる取組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や気づきを会議等で出し合い、話し合う機会をもっている。	物品の購入等、上司への要望は、その都度伝えている。月1回のミーティングは、夜勤者も含めて実施し、司会や書記は、職員間で当番を決めて開催することで運営に参加するという意識を高めている。管理者は職員との面談を年1回実施し、要望を聞き取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップや、やりがいを持って働ける労働環境の整備に努めている。労働条件等を話しやすい雰囲気や環境づくり。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に多く参加できるよう、時間や人数配分をしたり、学びたい事や興味がある事を聴いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の会議や研修、交流会への参加をし、定期的に他施設職員との交流がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴を把握し、本人の想いの傾聴に努め、その人らしい生活が継続できるよう支援していく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や不安なこと、困りごと等を伺い、改善できるよう考慮し、職員間での情報共有も行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の想いや要望等を聴き、意見交換を行いながら必要な支援を見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の会話や関わりの中で、本人がやりたい事、出来る事を一緒に見つけ、日々の生活の中で取り入れ、やりがいや役割を持った生活ができる環境整備に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	傾聴により得た情報を職員・家族間で共有し、本人を共に支えていく。また、面会時には家族との時間を大切にしていだける様な環境を提供している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近隣の方が面会に来られており、馴染みの関係や交流が継続できるよう支援に努める。	家族の訪問は、24時間可能である。入居時に、生活歴を詳細に聞き取り記録し、職員間で共有している。行きつけの理容室がある入居者や携帯を使用している入居者もいる。職員は、正月の準備を入居者に教えてもらうこともあり、一人ひとりの歩んで来た人生を尊敬し、寄り添う支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人が良い時間にフロアに来られ、コミュニケーションをとられる。無理のない声掛けやお茶やレクの時間を使った入居者同士の関わりが持てる環境を整備している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	面会に行ったり、情報交換や相談があれば対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴により得た情報を皆で共有し、何気ない一言から本人の想いを知り、支援に活かすようにしている。	職員は入居者の話を聞く際は、できるだけ居室で1対1となるよう配慮している。難聴の入居者に対しては、大きく口を開いて理解しやすい工夫している。就寝や起床の時間は自由であり、テレビの視聴に関しても干渉せず、職員間で情報を共有し、利用者の習慣を尊重する支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報を集め、職員間で共有し、その人らしく生活できるよう支援に活かすように考慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態や表情を観察し、変化に早めに気づき職員間での共有、協議し日々の支援に繋げるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員で毎月のカンファレンスや定期的なモニタリングを実施し、入居者の現状に沿った介護計画の作成に努めている。	入居時は職員が自宅を訪問し、本人や家族の意向を聞き取っている。短期3ヶ月、長期6ヶ月で見直しを行い、3ヶ月毎にモニタリングし、入院等で変化がある場合はその都度見直し、家族の同意を得ている。毎月の会議は職員全員で実施し、担当医の意見を取り入れ、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や日誌への記入及び、口頭でも伝え情報を共有し、どの職員も同じ支援が出来るよう心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や意向に応じて、柔軟な支援をしていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での出来事や現況に関心を持ち、交流が出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医や協力医との連携で受診・往診を行い、情報交換を行っている。家族に経過報告等を行い、意向等を伺っている。	入居時に母体の医療機関を説明し、かかりつけ医について本人・家族の同意を得ている。週1回の訪問診療の他、緊急時は24時間の往診体制がある。内科以外のかかりつけ医は継続し、職員だけではなく家族の協力も得ながら受診支援を行っている。両ユニットのいずれかに看護師を配置する体制で医療面の充実に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調変化や気づきがあれば、看護職員に早めに報告し指示や助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換や共有をし、早めの退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明し、状態に変化があれば家族に報告し、共に考えている。日々の傾聴を大切に本人の想いを終末期でも取り入れられる様考慮している。	入居時に指針に基づいて家族へ説明し、同意を得て数多くの看取りを実施している。看取り後に、経験したユニットが中心になって研修を行い、職員の意識を高めるよう取組んでいる。特に身寄りがない入居者の終末期の場合、行政や地域関係者と連携した支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを基に、発生時にはすぐ対応できるように備えている。全職員が救命救急講習会に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的に避難訓練を実施し、研修に参加している。地域の方へ有事の際の協力をお願いしている。	昼夜や水害を想定した避難訓練を年3回、内1回は消防署立ち合いの下、実施し指導を受けている。特に運営推進会議後に訓練を実施し、地域の協力体制を再確認できるよう工夫している。備蓄の食料、水は3週間分を確保しているが、緊急時の入居者の情報の持ち出し方法については、これからである。	災害においては入居者一人ひとりの緊急連絡先や身体的情報等の個人情報が必要不可欠であり、その内容や職員の誰もが緊急時すぐに持ち出しできる手順や方法について検討と取組みが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切にし、言葉遣いや対応に気を付けている。職員間では、お互いに注意し合える関係作りに努めている。	職員は、守秘義務に関する誓約書を提出している。入居者を呼ぶ際は、苗字で呼ぶよう指導している。個人記録は、ドア付の棚に保管しており、ホーム便りに掲載する写真についても家族から同意を得ている。パッド類は居室に収納し、他の人の目につかないようプライバシーに対する配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の想いを傾聴し、理解し、自己決定ができるように環境整備や手助けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく、安心してゆっくりできる居場所や時間の提供に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々に応じた一人ひとりのペースに合わせて、整容の声掛けを行っている。希望により美容師の訪問がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃のコミュニケーションから嗜好を聴き、献立に取り入れている。食事の下準備や片付けを一緒に行っている。	利用者の好みを聞いて献立に取り入れており、献立は、和・洋・中とバラエティに富み、パン食もある。おやつを入居者と一緒に作る時もある。定期的にドライブを兼ねて外食に出掛けており、楽しいひと時を過ごしている。夏祭りではバイキング形式の昼食の他、おせち、ひな祭りの祝膳等食事が豊かなものとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や食事状況の変化に配慮した、一人ひとりに応じた栄養管理や水分量の提供に努める。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人が負担にならない時間での口腔ケアの促しや清潔保持に努めている。本人ができる所はしていただき、足りない部分は声掛けや介助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により排泄パターンを把握し、自立支援に向けた個別支援を行っている。	排泄チェック表により、利用者一人ひとりのパターンを把握し、早めの誘導を行っている。ユニットの内、6部屋はトイレが居室内にあり、入居者それぞれのペースで排泄の支援ができる環境にある。排泄の自立を目標としており、ポータブルトイレは、夜のみ使用である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの体調管理と、水分量の把握や乳製品を活用し、自然排便に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴が楽しみになる工夫と環境整備を行い、本人の状態や希望に応じ入浴日以外の支援も考慮している。	おおよそ週2日の間隔で入浴の支援を行っている。入浴日以外では、清拭を行ったり、着替えの際にホットタオルを使う利用者もいる。車椅子の入居者には、職員2名で介助している。足湯を行う他、季節によってゆず湯や菖蒲湯など、入浴が楽しいものとなるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	穏やかに過ごせる場所、時間の確保と共に、無理のない日課の支援やレクリエーションへの参加を促し、安眠の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は薬情を活用し、把握し、複数回、のチェックをしている。気づきは薬剤師に相談し助言や指示をいただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみを見つけ、職員間で共有し、レクリエーション等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事での外出等の支援の他、入居者の希望を考慮した外出や買い物支援を行っている。家族との連携もとり支援している。	天気の良い日は、ホームの周辺で日光浴を行っている。外食に近隣の施設に出掛けたり、桜の名所へドライブしている。買い物は、職員が付き添い、定期的にホームを訪れる移動販売車を利用して菓子等を購入することが、入居者の楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人手持ちの方は、家族と相談しながら買い物を楽しまれ、少額を手元に持つことで安心されている入居者もられる。他の利用者は家族が金銭管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話や施設の電話を使い、いつでも家族と電話連絡が取れるよう、本人や家族の希望に添って支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの心地よい居場所の提供と安全への配慮を工夫し、環境整備を行っている。	リビングは、天井が高く開放的である。入居者が寛げるよう畳のコーナーやソファを設置している。掃除は職員が行っており、清潔で臭気もない。リビングの棚には、雑誌や個人別のアルバムを置いたり、壁に外出時の写真を掲示して、家族や職員との会話が弾むよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係を考え、時間や場所等の環境を整備している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた物の持ち込みや、本人が好む設えを考慮しながら、安全に配慮し、本人や家族の意向との調整を行っている。	備え付けのベッド以外の家具の持ち込みは、自由である。筆筒やテレビ、絨毯や掛け軸等で、個性溢れる居室となっている。仏壇のある居室もある。ポータブルトイレは、その都度洗浄し、日中は別の場所に収納し、清潔保持を心がけている。職員が部屋の換気や温度調節を行い、快適な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事、出来ないことを把握したうえで、本人の想いと安全に配慮した環境整備を行い、自立した生活の継続を支援している。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201322		
法人名	医療法人 梶田医院		
事業所名	グループホームみのりの里 すみれ		
所在地	長崎県佐世保市長畑町450番1		
自己評価作成日	平成29年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2ユニットありますが、ユニットごとに家族のようにゆっくりした生活を楽しんでおります。食事等も入居者様の好みや、状態に合わせて、時間も出来る限り自由な時間を大切にしております。いつまでもご本人らしく生きていただきたいと傾聴をととても大事なことで考えています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(いつまでも自分らしくあり、人生を送る)理念に近づけるよう職員は、心がけて入居者に接しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	火災訓練に地域の方の参加。保育園との交流。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の清掃活動参加。 地域の方との声掛けや、挨拶をして交流をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内での出来事や関心ごとなど情報共有の場になっている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	佐世保市担当者と連絡を取り勉強会なども参加し日々の介護に役立っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を施設内で研修をしたり、外部の研修に参加している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会開催、外部の研修参加する。防犯上施錠時間変更するも、利用者、家族に了承して頂く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング等にてスタッフと後見制度について話し合う事がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の説明と入所後にも必要に応じて説明をし 理解を得よう努める。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見を同法人のサービス事業所に相談したり、運営推進会議録を提示している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の気づきを会議等で意見を出し合う。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいのある職務感や、レベルアップに繋がる条件、整備に努める。給与、労働条件等を話しやすい環境づくり。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を設けたり、学びたいことや、興味がある事に気づきやすい環境整備		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの研修や、交流会の参加		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とのコミュニケーションをとりながら傾聴し安心して頂けるよう努力する		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の面会時、対応し要望、不安なことなどを聞き改善できるよう心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の想いを聴き、出来る事しなければいけない事をお互い意見交換をし信頼関係を構築するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々、生活の中で本人との関わりをもち過ごしやすい環境に心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	傾聴の中から得た情報をスタッフと共有し本人、家族と共に支えていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の想いや、体力を考慮しつつまでも交流が続くように努める		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室や、フロアにて過ごして頂くためお茶の時間や、レクレーションなど利用者同士の関わりを持ってもらうよう行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人サービス利用者との交流があり、情報交換をしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴で得た情報の共有。その時の思いをお互いで考えてみる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの情報を集め全員で共有し活用する		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の利用者の変化に気づいたらスタッフ間で協議しサポートに努めます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングを行い利用者の現状に沿った計画を立てています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や、日誌へ 日々の変化や、口答による伝達をしチームケアを心がけ共有し日々の介護に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望実現の為チームケアとして利用者間の交流に活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での相談事や、出来事に関心をもつようにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医や、専門医との情報交換。家族と一緒に対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調変化や気づきは、早めに看護職に相談し助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との情報交換をして、早めの施設復帰に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	傾聴の中から得た情報を、想いと捉え、支援計画の中で家族と共に、考え、変更を視野にいれ、協議している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを指針に、備え発生時の対応をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年数回の避難訓練を実施。地域の方の協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊厳を大切に考え、言葉遣いや、対応をしている。介護者同士で注意できる関係を築くように努める。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の想いを傾聴し、一緒に考え、助言、手助けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のその時の状況によって違いはあるが、本人の想いを大事に出来ない事に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が思う時間の流れを受容し、声掛けや、促しをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材注文や、季節野菜利用と献立から、利用者との傾聴を参考に楽しい時間の共有をしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の体重の変化や、食事状況の変化を常に重視し本人らしい体調管理に努める。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	苦痛に思わない口腔ケアを目標に衛生管理をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理票を参考に、排泄の声掛け、介助を行う		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を把握し、乳製品を利用して、自然排便に努める。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日以外の支援も考え、本人の状態優先に計画する。声掛け、お誘いの工夫も連携している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠は大事に思うが、本人の体調に合わせて疲労感が残らない日課の支援に努める		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は、数回のチェックと、職員間での情報共有でしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の楽しみをアセスメントから、引き出し本人と共に、楽しみを共有している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事に買い物支援や外食は取り入れている。移動販売車の利用で楽しい様子。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人持参の方は、家族と話し合いにて、楽しそう。他は、家族が金銭管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話で話したり、携帯利用で家族との連絡は、容易になってきた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全配慮の工夫で家具を用いているものの、それ以外は、居心地のいい場所の作りと確保に心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの安心できる居場所を確保し、ソファの位置は重要と考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の意向が重要と考える。安全配慮は、本人との話し合いで受容して頂くよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の出来る事、出来ない事を知り、環境整備の中に安全な自立生活の継続を提案し、受容して頂くよう努める		